inside Out [vol.02]

特集　茅葺：太古の時代からサステナブル

わたしたちと地域をつなぐマルシェ／趣味をつむぐ

つむぐ家 tsumugu ie

Ricono reformarenovation

つむぐ家 tsumugu ie

Ricono reformarenovation

e-emss.com　e-emss.jp

発行：株式会社 EMSS(エムズ)
〒599-8121 大阪府堺市東区高松323番地 TEL.0120-03-2701

太古の時代からサステナブル

「かつては農村で一番価格が安い屋根材だった茅葺ですが、現在では一番高価な屋根材となってしまいました。」そんな一言から茅葺職人・相良育弥さんが代表(棟梁)を務める(株)くさかんむり の皆さんに茅葺を学ぶ一日が始まりました。

丸太に足をかけ、急斜面を登り始めると茅なのか土なのか懐かしさを憶える匂いに包まれます。夢中になって登りつめたその先には空と一体になった世界が広がっていて、まさに非日常の特別な空間に身を置いていることを感じます。「この青空の下で汗を流すと、嫌なことや些細な悩みから心が開放されます。」という相良棟梁の言葉に共感しました。

一番てっぺんの棟を締め上げる作業体験。藁縄を用いて摩擦の力で締めていきます。茅葺に使われている素材は自然由来のものばかり、軒先の一部だけ針金を使っていますが、その他のすべてが、古くなれば畑の肥やしになり、やがて土に還っていきます。

「ぼくたちの仕事は建設業に分類されるのですが、いわゆる産業廃棄物はいっさい出しません。」

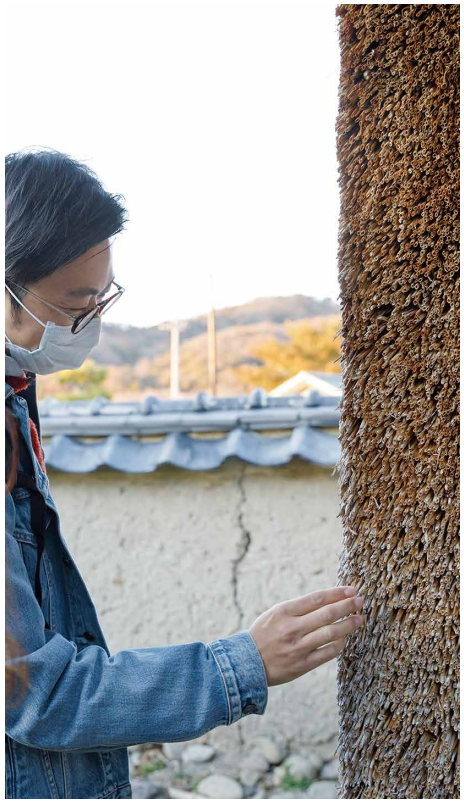
茅葺はその成り立ち自体がサステナブルの概念に当てはまり、今まさに世界規模で取り組んでいるSDGsを素材で、雇用で、考え方で、ごく自然に成り立たせてきたのです。

「この葺き替えが終わると次は20年後、また別の棟梁のもと葺き替えられます。ぼくが、次もこの現場で棟梁をしていてはダメなんです。人や技術もまた、世代交代をし持続可能な社会の要素でなければならないからです。」

茅葺体験後の相良棟梁の言葉が印象的でした。

株式会社くさかんむり
相良 育弥(さがら いくや) 代表(棟梁)
kusa-kanmuri.jp

神戸市は北区をはじめ山間部から平野部一帯にかけて、今でも茅葺屋根の文化を残す里山として知られています。
街道添いには、くさかんむりが携わった建築物や店舗をあちこちで見ることができ、現在進行形で茅葺が身近にあることを感じさせてくれます。風情ある景観のみならず、現在のデザイン性にも落とし込んだ茅葺のあり方は、多くの著名建築家にも影響を及ぼしています。



相良棟梁は、自分たちのことを周回遅れのトップランナーだと形容します。
昔ながらの営みは古い印象かもしれませんが、SDGsやサステナブルという概念のその先にあるのが茅葺なんだという自負を込めて。
また、茅葺の技術がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを決して喜んではいません。
登録されるということは守らなければ絶滅するということを表していて、そんな事では日常の循環形社会を形成できないという危機感を強くもっているからです。

収め方や雨じまい、断熱性や遮音性など、知るほどに建築素材としての茅葺に興味が尽きません。

茅葺の先進国、北欧

茅とは、芒（すすき）・葦（よし）・稲藁（いなわら）・小麦藁（こむぎわら）・熊笹（くまざさ）など、古来より屋根葺きに使われてきた植物の総称です。

日本国内でも使う材料や葺き方に地域性がありますが、茅がある国なら世界中で使われてきた歴史があります。中でも、北欧は茅葺の先進国であり、国土の海抜が低いオランダでは地球の温暖化に敏感なため、二酸化炭素の排出を利用サイクルの中で止める茅への注目は年々増しています。例えば、建売住宅の屋根や壁の素材として茅を選ぶことができるほどポピュラーな存在です。

左から図書館、役所、消防署（オランダ・ミッデンデルフトランド）

茅場の多面的機能と循環

茅は暮らしのサイクルで有効利用され、やがては土に還っていく

国内でも、北欧の状況を羨ましく思ってばかりではありません。相良棟梁率いるくさかんむりの面々が法令に抵触しない範囲でサインとしての扱いや什器の開発、茅葺ワークショップなど様々な活動を通して、持続可能な社会のあり方を啓蒙しています。

また、茅葺き文化伝承議員連盟という団体も組織され、国会議員や著名建築家などが茅葺の技術と文化を次代に受け継いでいくためのロードマップを描いています。

近い将来、都市部の住宅地で茅葺の新築が建ち、区役所に茅葺が採用される、そんな日が来ることを楽しみにしています。　未来の私たちのために。

住まいづくりを通して持続可能な社会の実現を目指している私たちにとって、茅にふれ学ぶことはとても有意義な体験でした。兵庫県の地方から世界の住宅事情まで、サステナブルな社会の具体性をインプットし、私たちならではの感性でアウトプットしていきたいと、あらためて思いを強くしました。

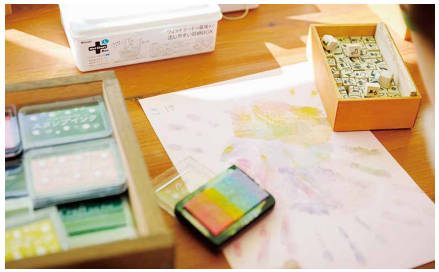
相良棟梁から日本や世界の茅葺事情を聴く

笑顔の交歓が紡ぎだす地域社会形成

わたしたちは、地域において安心して暮らせる街づくりを目指し、春と秋にMarche de mimi(マルシェ・ド・ミミ)を開催しています。わたしたちの想いに共感してくれる地域住人と30ブースを超える出展者たちとの心和む場(時間)を生み出すことで、より豊かな暮らしのあり方を実感し、いつまでも笑顔が行き交う街づくりを考えています。

Marche de mimi vol.12

今回のマルシェ・ド・ミミを企画する際に一番に考えたのが、安心・安全をしっかりと担保すること。
手づくりのイベントだからこそ、一人一人がおろそかにできないという思いを皆で共有できたことが喜びの一つです。



マルシェ・ド・ミミでは地域の人々を繋いで、少しでもこのエリアが元気になるようにと想いを込め、またイベントを通して環境や省エネ・エコに興味を持って頂けるよう、SDGsの認識普及に取り組んでいます。

次の世代に豊かな未来を繋ぐために。

SDGs未来都市・堺
Sustainable Development Goals Future City, SAKAI CITY

「Marche de mimi」はSDGs未来都市・堺を応援しています。

コロナ禍での開催に一抹の不安を覚えながらの当日朝、大勢の方々の笑顔をお迎えすることができました。

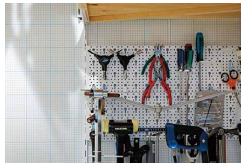
ゆっくりも、すっきりも。

私たちや私たちにご縁のある方々の素敵な趣味を紡ぎたいという思いから、今回は自転車が趣味というご夫妻のお宅へご訪問し、自転車の魅力をたっぷりと語っていただきました。

ご主人は学生時代から自転車が大好きで自転車部品大手メーカーに就職するために関東から堺市へ。レース用からサイクリング、オフロードまであらゆる自転車を楽しまれています。

大型バイクも乗りこなすアクティブな一面をお持ちですが、自転車の魅力はなんと言っても五感で楽しめることだそうです。その土地や季節ならではの匂い、ぬくもり、素晴らしい景色。自分のペースでそれらを満喫でき、この感覚は自動車やバイクでは得られないとのこと。

趣味の自転車のための特別な空間



一方、奥様は一般道路の自動車が走る横をサイクリングするのは苦手で、サーキットに自転車を持ち込んで楽しまれています。鈴鹿サーキットの8時間耐久レースなどにもご友人達と参加し、完走も果たされています。

ゆっくりと景色を楽しんだり、スピード感ですっきりとしたり、ご夫妻がお互いを尊重しながら自転車を楽しまれていることが羨ましく感じます。

そんなお二人とのご縁の始まりは、奥様のご実家のリフォームを私たちにご依頼いただいたことにあります。

ご夫婦が新築される際にも再びご指名いただき、住まいづくりを共に。お二人の快適な暮らしのために、自転車のお部屋の天井の高さは、上から自転車を吊るしてもご主人が屈むことなく活動できるように設計されています。

2階の上部に設けたロフトへのアプローチは保護猫の格好の遊び場となっていて愛猫にも好評のようです。

コロナ禍で在宅時間が増えたお二人の愛猫達を眺める眼差しに優しさが満ちていました。

右／プロ仕様の工具類が整然と並べられています
左上／秘密基地のようなロフトへと続くアプローチ
左下／保護猫の兄妹を膝の上に抱いている時も幸せ

FM EMSS

こんにちは。
木工担当の堀です。
なんでも自分で作ってみないと気が済まない性分で、あれこれとモノづくりを趣味として楽しんでいます。

つまみ細工の手づくり髪飾り

今回ご紹介するのは、つまみ細工の髪飾りです。
皆さま、ご存知でしょうか?
女性が成人式に羽織る振袖は、数年前から貸衣装を予約すると、いわゆる早割というサービスがあります。私も2年後の娘の成人式に向けて衣装選びをし、併せて髪飾りも吟味しました。
ところが、あまりピンとくる髪飾りがありません。そこで、またムクムクと湧き上がったのが、「自分で作ってみよう!」精神です。
材料は百均で大抵のものは揃います。作り方はネットで調べたり、独自で工夫したり。いくつか私なりに納得できる作品が完成しましたが、娘が気に入らないらしく困ったものです。(笑)
2年後には、娘も喜ぶようなデザインのつまみ細工を完成させたいと思います♪

編集後記

設計補助の村田湖奈美です。
前回予告していました社屋の1階エントランスのお庭づくりですが、南仏を意識した明るい印象の設計パースを社内プレゼンしたところ、社内から「つむぐ家らしくないのでは?」という貴重なご意見をいただきました。「つむぐ家らしい」という基本コンセプトをしっかりと自身に落とし込むことができていなかったのだと学びになりました。具体的なアドバイスもいただき、あらためて「私たちらしさ」を見つめ直したいと考えています。ヒントはこのコンセプトブックにも潜んでいそうです。

初回プレゼンテーション資料
私たちらしさの先にあるのが、お客様の喜びであり満足。木の温もりであったり、気候風土に馴染むようなお庭になるようもっともっと考えます。お打ち合わせに来られた方々の思いや夢を紡ぐ場となりますように。